

地域医療構想推進シートの概要

(1) 地域医療構想策定の趣旨

令和 7(2025)年にいわゆる「団塊の世代」が全て 75 歳以上となる中、医療のあり方は、主に青年壮年期の患者を対象とした「病院完結型」の医療から、高齢者の特性を踏まえ、住み慣れた地域や自宅での生活を支える「地域完結型」の医療に重点を移していく必要があります。

地域医療構想は、病床削減を目的としているものではなく、新公立病院改革プランや公的医療機関等 2025 プラン等を踏まえつつ、このような医療のあり方や人口構造の変化に対応し、リハビリテーションや在宅医療の確保など、バランスの取れた医療提供体制を構築することを目指すものであり、令和 7(2025)年における病床の機能区分ごと(高度急性期、急性期、回復期及び慢性期)の必要量を定めるとともに、その実現に向けて、病床機能の分化及び連携の促進、在宅医療等の充実、医療・介護従事者の確保・養成等の施策の方向性を示すものです。

(2) 構想区域

医療法に基づく「第二次医療圏」、介護保険法に基づく「高齢者保健福祉圏域」と同じ 21 医療圏となっており、本圏域については富良野市、上富良野町立、中富良野町、南富良野町、占冠村の 5 市町村で構成される。

(3) 期間

富良野地域推進方針の別冊(一部)として策定しており、地域医療構想に関する事項については、令和 7(2025)年における医療需要を推計しています。

(4) 推進シートの進行管理

この構想は、住民・患者の視点に立ち、道や市町村などの行政機関、医療提供者、関係団体及び住民が、地域の最も重要な社会基盤の一つである医療提供体制の確保に向け、毎年度、富良野圏域地域医療構想調整会議において、直近の病床機能報告制度における報告内容などとの比較や検証を行います。

(5) 病床の現況及び 2025 年の見込み(令和 4 年度版)

※ 推進シートより一部抜粋

必要病床数 (2025(R7)年推計)		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	
		25 床	120 床	177 床	165 床		487 床	
参 考	病床機能報告・意向調査	H28.7.1	0 床	335 床	0 床	175 床	0 床	510 床
		R3.7.1	0 床	164 床	147 床	132 床	0 床	443 床
		H28 年比	0 床	▲ 171 床	147 床	▲ 43 床	0 床	▲ 67 床
	(許可病床)	2025	0 床	164 床	138 床	122 床	0 床	424 床
		必要病床数-2025	▲ 25 床	44 床	▲ 39 床	▲ 43 床	0 床	▲ 63 床